

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう		
所在地	小樽市桜1丁目27番53号 (電話) 0134-54-7360		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年2月4日	評価確定日	平成21年2月12日

【情報提供票より】 (平成21年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 6月 7日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	36 人	常勤	34 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 17.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての 1～3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000～40,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: 15,000円 暖房費(10～4月): 6,500円
敷金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり 35,000 円		

(4) 利用者の概要 (1月 1日現在)

利用者人数	26 名	男性	5 名	女性	21 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	8 名		
要介護5	6 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	62 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西病院、済生会小樽病院、三ツ山病院、市村歯科クリニック、たかむら歯科、常見医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成12年に3ユニットで開設した「グループホーム ふきのとう」は、小樽市の街並みと石狩湾を一望できる高台に位置し、日々景観が楽しめる環境にある。運営者は開かれたホームを目指し、ありのままに情報を公開し運営に反映させている。9年近く経ち介護度の高い利用者も多く、看取りも体験した職員は個人の状況に合わせて対応している。徐々に外出は困難になりつつあるが、ユニットごとに出かける楽しみの他に、ホーム建物内の「多目的ホール」を利用し、近くで多彩な催しで楽しめるような工夫もなされている。行動障害があっても家庭的な環境で楽しく生活ができるように、職員は笑顔で接しその人らしい生活を支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を踏まえ、理念について再検討し業務や介護計画に反映させ、運営推進会議には地域包括支援センター職員も参加し具体的な話し合いが行われている。現在、近隣の協力も得て火災避難訓練の準備をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はユニット会議などで項目ごとに話し合いを重ね、それらを管理者、ケアマネージャ、ユニット・リーダーが中心になってまとめた。前回の外部評価の結果を踏まえ、地域住民との関わりを再認識し、職員の中からも企画案が出され、外出の機会が増えている
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では忌憚のない意見交換がなされており、運営状況、行事、事故に陥りやすい状況などを詳細に報告している。出された意見は真摯に受け止め、ホームで内容を検証し対応について話し合っている。今年は、地域包括支援センターの協力でホーム建物内の「多目的ホール」で住民を対象にした「認知症サポータ養成講座」を開く予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月「ふきのとう通信」を発行し、全体的な行事などの他に、個人へのメッセージ欄に暮らしの様子を載せ報告している。家族の来訪時や電話で話す時は、意見を積極的に聞き出すように努めている。毎週の全体会議で苦情や要望などを確認し、それらがあつた場合はユニット会議で話し合い、迅速に対応し、議事録を回覧して職員に周知している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	利用者は地域の行事、小学校のお祭り、中学校の文化祭等に出かけている。また、8月の法人夏祭りには住民に参加を呼びかけ、2月にはホーム前に小樽「雪あかりの路」の雪像を中学生に手伝ってもらう。月に数回のボランティア訪問による多彩な催しを楽しみ、散歩の時は公園に遊びにくる中学生や親子と会話を交わすなど、地元との交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念に地域密着型サービスの視点を加える検討もしたが、理念の中に、「当たり前の生活」を支える、という文言を入れている。この表現には、利用者が地域の中で生活することも含まれているので現在の理念をそのまま継続したいと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所の見やすい所に掲げ、パンフレット、ホームページにも載せ周知している。職員は利用者が家庭的な環境でゆっくりと、楽しんでいるかをユニット会議などで確認し、理念を介護計画にも反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は地域の行事、若竹小学校の祭り、桜町中学校の文化祭等に出かけている。また、法人の夏祭りには住民の参加があり、2月にはホーム前に「雪あかりの路」雪像をつくる時、中学生に手伝ってもらするなど、地元との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニット会議などで項目ごとに話し合いを重ね、それらを管理者、ケアマネジャー、ユニット・リーダーが中心になってまとめた。前回の外部評価の結果を踏まえ、地域住民との関わりを再認識し、職員の中からも企画案が出され、外出の機会が増えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域包括支援センター職員も加わり、忌憚のない意見交換がなされている。運営状況、行事、事故に陥りやすい状況などを詳細に報告している。参加者からの意見を真摯に受け止め、ホームの全体会議で内容を検証し対応について話し合っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は書類報告の時も頻繁に訪問し、担当者との情報交換をしている。また運営についても指導を受けながらサービスの質の向上を図っている。今年、地域包括支援センターの協力でホーム建物内の「多目的ホール」で住民を対象にした「認知症サポーター養成講座」を開く予定である。	○	小樽市と連携して、地域住民に認知症の理解を広める取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ふきのとう通信」を発行し、全体的な行事などの他に、個人へのメッセージ欄に暮らしの様子を載せ報告している。個人情報への同意を得て、ホームページにもサービス評価の結果や行事などを載せ、いつでも見られるように配慮している。毎月、金銭出納帳のコピーと領収書類を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や電話で話す時は、意見を積極的に聞き出すように努めている。毎週の全体会議で苦情や要望などを確認し、それらがあった場合はユニット会議で話し合い、迅速に対応し、議事録を回覧して職員に周知している。運営推進会議にも報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動を極力避け、馴染みの関係に留意している。ユニット間の異動や隣接する同法人のグループホームへの異動があっても、散歩や合同での行事に利用者とうので精神的なダメージにはなっていない。退職する職員は理解できる利用者には伝えている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は月に数回の研修を計画し、費用は会社負担で学びやすい環境を作っている。新人研修には社内用テキストを使用し、初回と3ヶ月後に研修会を実施している。継続研修ではレベルに応じた外部研修に参加し、会議や閲覧で内容を共有している。法人内研修には外部から講師を招き、さらにユニットでの勉強会などもあり、学ぶ機会は多い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市の「グループホーム連絡協議会」に職員も参加し、勉強会、情報交換等で同業者との交流を図っている。札幌にあるグループホームと相互に見学し業務に役立てている。今後は、地元の同業者との見学も考えたいと意欲的である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族の見学を勧めている。また、ホームからも病院や自宅を訪問し、本人と顔見知りになり意向や情報などを確認している。入居後は安心して環境に馴染めるように、職員がマンツーマンで数日間対応し利用者の言葉や表情を観察しながら、職員間で対応を話し合っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の可能性を引き出すため、一緒に試み、出来るようになってうれしく、笑顔をみせてくれるので励みになる。職員は料理を一緒に作る中で昔の方法を教えて貰うこともある。おやつ時には共に過ごし、ゆったりと会話を楽しむようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「外に行きたい」、「アイスクリームを食べたい」など、個人の希望にできるだけ沿うように対応している。また、自宅で生活したいとの意向をくみ取り、家族とも何度か話し合い、退去し自宅の生活になった例もある。ユニット会議や日々の業務の中で職員は利用者の思いをさぐり検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者が中心になって、家族、本人からの情報や意向、主治医および以前のケアマネジャーの情報をもとに、ケアマネジャー、職員と共にアセスメントし、1~2週間モニタリングした上で、原案を作成、カンファレンスで協議した上で必要な修正を行い、家族の確認を得て実行計画としている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>前期・後期に分けて年2回の見直しを基本としているが、毎月モニタリングを行い、生活機能や健康状態の変化があればその都度、本人・家族の意向を確認し、職員間で協議して必要な修正を行い、主治医へも説明している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院介助、買い物同行、理美容室への外出同行などを支援している。外来受診が負担になるような場合には、協力病院の訪問診療や看護を活用して負担軽減を図っている。看取りの時期などには家族の宿泊にも便宜を計らっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療機関の継続診療を尊重し、希望に応じて当ホームの協力病院を紹介している。かかりつけ医の受診には家族と連絡を取りながら職員が同行し、医師に日ごろの様子を報告し、突発的な異変があった場合にはその指示を仰いでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営規定に「重度化における対応」を掲げており、入居の際に医療連携体制の指針を説明し、「重度化した場合における対応に係る指針」および「看取りに関する指針」について本人・家族の意向を確認して同意書を交わしている。看取りが近づいた段階での意向の変化にも配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	長く接していると言葉も馴れ合いがちになることを戒めて、職員の意識向上に努め、研修も行っている。ホームページや「通信」に掲載する写真については家族の了解を得ている。文書の扱いは保管場所を定めて適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつなど、大まかな日課はあるが、本人の事情や希望に応じてゆるやかに対応している。レクリエーション参加なども、声をかけるが、本人の希望に任せている。外出や買い物の希望には極力他の業務に優先して対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューと食材は業者に委託しているが、業者とは誕生日や行事、個人の好み、摂食条件など常時情報交換しており、希望に沿った、適切な食事が提供できる態勢になっている。職員も一緒に食事を楽しみ、食事関連家事には一部利用者も参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を問わず、毎日午後が入浴時間帯であり、本人の日課や気分に合わせて1週間に2~3度入浴できるようにしている。拒否された場合は間をおいて新たな工夫で声をかけるなどして、結果として利用者は気持ちよく入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、寝具の片付け、食器洗い、テーブル拭きなど、職員と共に家事を分担し、楽しんでいる。カラオケ、ドライブ、お祭りなどホームの行事や、踊り、尺八などボランティアを招いての催しなど、毎月多彩な行事が開催されて利用者を楽しませている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏の天気の良い日は近所の公園や周辺の住宅地を散歩したり買い物したりなどでほぼ毎日外出している。季節や天候、利用者の体調などによっては隣接施設の広いホールや廊下を活用して身体を動かしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、不意の外出には見守りと玄関のチャイムの音で対応している。どうしても出ようとす時は無理に引き止めることなく、さりげなく声をかけて思いとどまらせ、あるいはついて出て安全を確認するなどして、鍵をかけないケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署が実施する訓練行事に職員を派遣して避難経路の確認や消火器の使用方法などの訓練を受けさせている。運営推進会議では災害時の近隣の協力を呼びかけている。	○	施設での実地の訓練を実施するよう、期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は個人別に毎日記録されている。水分摂取は1日約1000ミリリッターを目標に、不足する場合はゼリーや果物で補給している。不足気味が続く時は主治医に報告し、助言を求めている。栄養バランスは食材業者の管理栄養士が管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アパートを改造した施設であるため、ユニットごとに広さや配置は異なるが、廊下や居間は行事の写真や季節感豊かな利用者の作品で飾られ、楽しい雰囲気になっている。風呂場やトイレは明るく清潔である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の造りも部屋ごとにそれぞれ異なっており、多様な生活空間が並存している。認知症の症状によって、家具類の配置や装飾の難しい部屋もあるが、大方の部屋は使い慣れた家具や置物、装飾品が豊富に取り揃えられ、家庭的な暖かい雰囲気になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。